

TOPICS

「参加型の観光」、第6回「バサラ祭り」が開催される。

「奈良は古い」というイメージを払拭したい！ 奈良の町に新しい息吹を吹き込み、元気いっぱいの祭りを作り出したい！ そんな思いから1999年に「バサラ祭り」が産声をあげた。

今年で6回目を迎えた「バサラ祭り」は、今や古都・奈良の夏を締めくくるイベントとして、また、観る観光だけではなく「参加型の観光」として市民に定着している。

■バサラとは

「バサラ」とは鎌倉・室町時代に流行した風潮で、音楽や舞楽などの拍子をわざとはずして、自由に、目立つように演じること。

南北朝時代には、人の目を驚かさず派手な衣装、粋なふるまいが、動乱期の美意識、価値観を端的にあらわし、当時の流行語になったと言われている。

元々はサンスクリット語で「ダイヤモンド」を意味することから、「キラキラと輝き、何者にも打ち砕かれない」というイメージで使われたとも言われている。

■バサラ祭りとは

「バサラ祭り」とは、奈良の町中でダンスをする祭りのことで、鎌倉・室町時代の「バサラ」のパワーとエネルギーを現代に蘇らせる古都・奈良の新しい夏祭り。



高知県の「よさこい祭り」や北海道の「よさこい・ソーラン祭り」を参考にしてできた奈良独自の祭りである。

【バサラ祭りのチラシ】

「踊り隊」が自分たちの思い思いのコスチュームやメイクを施して、オリジナルの振り付けで踊りながら練り歩く、「ダンシングパフォーマンス・パレード」。

地方車（じかたしゃ）と呼ばれる音響と照明を搭載した車が先導し、その後から「踊り隊」がバサラ踊り歌である「踊る・なら・そらっ」に合わせて踊りながら続く。

パレードの会場は、奈良市の近鉄西大寺駅南口周辺と近鉄奈良駅周辺商店街で、この2日間は古都・奈良の町が踊りのメインステージ化する。



【西会場（近鉄西大寺）のダンシング風景】

■実行・運営

「バサラ祭り」を開催・企画・運営するのが、奈良好き人間たちが集う「バサラ祭り実行委員会（実行委員長：魚谷和良氏）」である。

委員会のスタッフは祭りの趣旨に賛同した地元

の人達が中心となって構成され、仕事も年齢もバラバラである。

今年、奈良県立大学の学生が体験学習の一環として祭りの運営に参加した。

また、オリジナル曲の制作からポスター、チラシの制作、鳴子のデザイン、衣装や振り付けのモデル・パターンについては、全てを有志のプロがボランティアとして協力している。

■会場およびタイムスケジュール

○8月28日(土)

【西会場】

16:00~18:00 近鉄西大寺駅南口周辺
(パレードコース)

【東会場】

16:30~19:30 小西さくら通り、餅飯殿商店街、東向き商店街
(パレードコース)

○8月29日(日)

【東会場】

13:30~16:30 三条通り
(パレードコース)

【奈良公園会場】

13:30~20:15 奈良県庁前広場(登大路園地)
(コンテスト/ファイナル)



【奈良公園会場でのコンテストの様子】

■今年の開催

今年、奈良県内だけでなく兵庫県、大阪府、三重県など県外からの参加者が増加した。

踊り隊のメンバーの年齢は、小学生以下の子供から高齢者まで幅広い。

また、ダンスを習っている人から全くの素人までさまざまであり、合計33チーム、総勢約1,300名の多彩な顔ぶれが揃った。

当日の様子は地元のテレビ局で放映されたほか、バサラの熱さをインターネットでも生中継され、祭りの雰囲気が大いに盛り上がった。

28日には西会場、東会場の両会場でパレードが繰り広げられ、29日にはパレードと並行して奈良公園会場で「ダンスパフォーマンス・コンテスト」が行われた後、ファイナルステージで和太鼓の演奏、コンテスト結果の発表があり、祭りのフィナーレを飾った。

■おわりに

2日間の期間中に「バサラ祭り」を見に来た人は、6万人を超えているという。これは地域の活性化に大いに貢献しているといえる。

また、観光都市奈良の新しい観光スポット(市民参加型の観光名所)としても注目を浴びており、今後も拡大、新たな展開が期待できよう。

自由奔放がモットーの祭りである「バサラ祭り」は、毎年毎年、型にはまらず進化していく。

さて、次の開催ではどんなパフォーマンスが示されるのでしょうか? 2005年が待ち遠しい。

(写真提供:バサラ祭り実行委員会 事務局)

問い合わせ先:

バサラ祭り実行委員会 事務局

〒631-0805 奈良市右京3丁目22-7

TEL: 090-4038-9953

e-mail: basara@m4.kcn.ne.jp

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~basara/>